

生活

丈夫が いいね

じょうぶ

1438

たせきや発熱が2週間ほど続く。一般的な肺炎と比べると体調は良いことが多いが、単に「風邪が治らないだけ」と思い込む患者が多い。

今年は流行の兆し

マイコプラズマ感染症は「オリンピック熱」とも呼ばれる。その名の通り、4年に一度のオリン

ピックイヤーに患者が増える傾向にあるからだ。

ロンドン五輪が開催される今年も「すでに昨年秋季ごろから流行の兆しがあり、小児の感染報告数は

では有効だったマクロライド系抗菌薬を投与しても症状が改善されず、入院するケースも増えています」と市村教授。抗菌薬に耐性を持ったマイコプラズマへの感染報告は全国的に急増しており、この場合、投与する抗菌薬を変えなければならない。「薬が効かない」と感じたら早めに再受診した方がいいという。

ただの風邪と思いつつも、病原体をまき散らすことにならないためにも、せきが続いたら外出の際にはマスクを着けるようにしたい。

長引けば感染症疑って

「風邪をひいたら栄養をとって、体を休めるのが一番だ」と、よく言われている。確かに、体調を回復させるためには、この二つが基本中の基本。だが、安静にしているだけではなかなか治らない風邪もある。「熱やせきが長くよ

風邪④ マイコプラズマ

うなら、それは『マイコプラズマ感染症』かもしれません」。金大大学院医学系研究科の市村宏教授(ウイルス感染症制御学)はこう警告する。せきやくしゃみのしづきを介してうつ

り、体力がない子どもや高齢者では肺炎を起こして命に関わることもある、侮れない病気だといふ。

第38部 変わる常識

マイコプラズマ感染症の原因になるのは、風邪の病原体の一種で、ウイルスと細菌の間位置する微生物「マイコプラズマ」だ。これが肺などに入り込むと、炎症を起こして乾い



しつこいせきを引き起こすマイコプラズマ(大阪市立大提供)



薬効かない症例も増加

例年の2倍以上に増加しています」と市村教授は注意を呼び掛ける。この病気の治療には医師が処方する抗生物質を使つしかない。一般的な細菌性肺炎に有効な抗生物質の中にもマイコプラズマに効き目がないものがある。正しい診断が何より重要になる。

薬に耐性を獲得

「さらに厄介なことに、今年の流行では、これま

「丈夫がいいね」第1巻 34部発売中。お問い合わせは北國新聞社出版局 11076(260) 3587

◇「丈夫がいいね」は毎週水、金曜日に掲載します。